

「マタイ4章 メシアの戦略」

イントロ:

1. 時代は、「内側に向かう」、つまり、「内面の浄化と可能性」に関心を払う。
 - (1) ニューエイジ運動、スピリチュアルブーム、自己啓発セミナー
 - (2) キリスト教はあくまでもイエス・キリストに目を注ぐ。
2. 『牧師が読みとく般若心経の謎』
 - (1) 仏教は「内側に向かう」。
 - (2) キリスト教は「天の父の心を仰いで生きよう」とする。
3. イエスは信頼に足るメシアなのか。
 - (1) 年金着服9自治体。告発は東京都日野市のみ。
 - (2) 生命保険 38社で不払いは計 120 万件、910 億円。
日本生命、第一生命保険、住友生命保険、明治安田生命保険の大手4社の不払い件数は72万5650件、596億円に達した。金融庁は報告内容を精査した上で、行政処分の検討に入る。
4. マタイは、海千山千の男。その彼が、イエスについて証言している。
 - (1) 1章 メシアの系図
 - (2) 2章 メシア預言
 - (3) 3章 先駆者バプテスマのヨハネとメシアの登場
 - (4) 4章 メシアのテスト、メシアの戦略

イエスは信頼に足るメシアである。

I. メシアのテスト

はじめに:テストの意味

- (1) 「メシア(神の子)であることを証明せよ」との悪魔からの挑戦
 - ①悪魔の計画は、イエスに罪を犯させること。
 - ②十字架を通してではない人類救済計画を提案すること。
- (2) イエスを荒野に導いたのは神の計画
 - ①悪魔の誘惑にさらすことで、イエスが罪のない神の子であることを証明。
 - ②無罪でなければ、人類の救い主となることができない。
- (3) 荒野は神の声を聞き、神に近づく場所。
 - ①40日間におよぶ断食祈禱の後、イエスの耳に試みる者の声が聞こえてきた。
 - ②これは、あらゆる信仰者が通過する普遍的な出来事。

1. イスラエルの民の代表として

- (1) とともに「神の子」(出エジプト4:22～23 参照)。
- (2) とともに荒野で誘惑に会っている(I コリント 10:1～13 参照)。
- (3) イスラエルの民の放浪は40年間、イエスの断食は40日。
- (4) イエスは、悪魔に対抗するのに、申命記から聖句を引用。
 - ①申命記は、神とイスラエルの民の間に交わされた「契約の書」。
 - ②民は契約に違反したが、イエスはそれを引用することによって勝利した。
- (5) 悪魔に勝つ方法は、状況にふさわしいみことばを引用し、それを適用すること。
- (6) 日々のデボーションを通してみことばを心に蓄える。

2. 人類一般の代表として

- (1) ヘブル4:15 私たちの大祭司
- (2) Iヨハネ2:16 にヒントがある。3つの分野における試み。
 - ①肉の欲
 - ②目の欲
 - ③生活のおごり

3. メシア(神の子)として

- (1) この石がパンになるように。申命記8:3
- (2) 身を投げてみれば。申命記6:16
- (3) 私を拝むなら。申命記6:13
- (4) 以上の誘惑は、すべて十字架を避けて安易な道に導く誘惑。
- (5) 悪魔の休戦。イスラム教徒の休戦も、よく似ている。

II. メシアの戦略

1. 場所

- (1) 12節:先駆者が苦難に会うなら、メシアも苦難に会う。
- (2) 13節:ナザレを去ってカペナウムへ。
 - ①ナザレの人々の不信仰。
 - ②戦略的に重要な町。
- (3) 14～16節:イザヤ9:1～2の成就。
 - ①「ヨルダンの向こう岸」、「異邦人のガリラヤ」とは、アッシリヤの視点。
 - ②バプテスマのヨハネの奉仕も届かない所。
 - ③「暗闇の中」、「死の地と死の陰」
 - ④「光が上った」。マタイの体験。

2. 人

- (1) 前提:4人はバプテスマのヨハネの弟子(ヨハネ1～2章)。
- (2) 前提:4人は大漁の奇蹟を経験している(ルカ5:1～11)。
- (3) イエスと自分の差を認識。罪の認識。
- (4) ラビが弟子を召している。
- (5) 4人にとってはパートタイムから、フルタイムへの変換。
- (6) 過去の経験が生かされる。
- (7) 網を捨てた。イエスに対する全面的な信頼。

3. 方法

- (1) ユダヤ人の会堂で教えた。アブラハムの子孫であるユダヤ人たちに対して。
- (2) メッセージの内容:「御国の福音」(神の国の福音)。
 - ①自分はユダヤ人の王として到来したというメッセージ
 - ②自分が全人類の罪を負って十字架に付くというメッセージではない。
- (3) 権威の証明:イエスの権威が「しるし」をもって証明された。
- (4) 魂(教えること)、霊(福音を宣べ伝えること)、肉体(癒すこと)の必要。
- (5) イエスの噂は、ガリラヤ地方だけでなく広範囲に広がった。
 - ①ガリラヤ
 - ②デカポリス(10のギリシア風の都市)
 - ③エルサレム(ラビ的ユダヤ教の中心地)
 - ④ユダヤ(南部の地域)
 - ⑤ヨルダンの向こう岸(ヨルダン川の東側)
- (6) イエスは、もはやガリラヤ出身の無名のラビではない。
- (7) 神の国運動は、短時間のうちに強力な運動へと変貌を遂げた。

結論 メシアは信頼できる。

1. 荒野の誘惑に勝利した主
 - (1) 十字架への道以外には見ていない主。
 - (2) 私たちにとっての最善しか考えていない主。
2. その戦略において知恵と権威を発揮した主
 - (1) 人を用いる。権限委譲。
 - (2) 本質を語るなら、小さな始まりが大きな影響を及ぼす。